

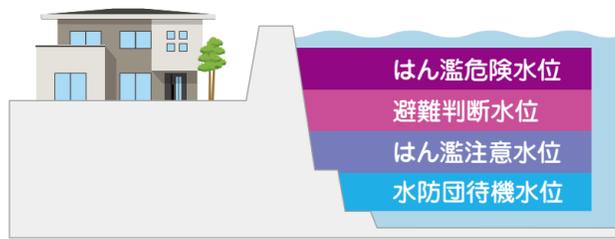
雨の強さと降り方(1時間降雨量)

1時間雨量	10mm以上~20mm未満	20mm以上~30mm未満	30mm以上~50mm未満	50mm以上~80mm未満	80mm以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る	息苦しくなるような圧迫感がある
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる	傘は全く役に立たなくなる		
屋内(木造住宅を想定)の様子	雨の音で話し声がよく聞きとれない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる	道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる		

河川水位情報

<http://www.kasen.pref.fukuoka.lg.jp/bousai/main.html>

川の水位が大雨で「避難判断水位」に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合、「はん濫警戒情報」を発表することがあります。川沿いでは情報に注意し、すばやい行動を心がけましょう。福岡県河川防災情報で各水位観測所の水位を確認できます。



河川名	遠賀川	遠賀川	彦山川
観測所	日の出橋	勘六橋	中島
はん濫危険水位	8.1m	—	—
避難判断水位	7.1m	—	—
はん濫注意水位	5.9m	5.2m	5.0m
水防団待機水位	4.6m	3.8m	3.7m

洪水における避難のポイント

！ 浸水が始まる前に早めの避難を

はん濫水は勢いが強く、大人の膝程度の深さで歩行が困難となる。浸水してからの自宅外へ避難は危険。気象予報や河川洪水予報などの情報をもとに、身の危険を感じたら自主的に避難を開始する。



！ 状況に応じた避難を

周囲の状況が危険で避難場所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物のできるだけ高い階に避難する。移動途中であっても、危険を感じた場合は、近隣の建物のできるだけ高い階に退避する。



！ やむなく浸水の中を歩く際は

裸足、長靴は厳禁。水中で脱げづらい紐靴などが適している。また、はん濫水は濁っているため、水面下が確認できない。長い棒などを杖替わりとし、側溝やマンホール、障害物に注意する。



！ 川や用水路に近づかない

降雨が続き不安に思っても、川や用水路、田畑の用水は見に行かない。やむを得ない場合は複数人で行動する。河川の様子確認は、ライブカメラ情報を活用する。また、避難の途中でも増水した川の近くを通るのは避ける。



！ 地下室、地下街は危険

地下にいる場合、地上の様子が把握しづらく、避難経路が限定される。また、地上が冠水すると、一気に水が流れ込んでくる場合もある。停電の可能性も高く、脱出が困難となる。



！ アンダーパスは危険

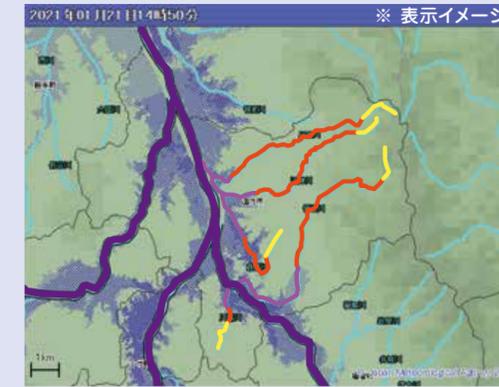
道路や線路の下をくぐるアンダーパスや地下道は、洪水の際、真っ先に浸水する。場所を把握し、迂回路を想定しておく。



洪水警報の危険度分布

<https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/flood.html>

洪水警報の危険度分布は、気象庁が提供している中小河川の洪水災害発生危険度の高まりを、5段階に色分けして示す情報です。避難にかかる時間等を考慮して、3時間先までの予測値を用いており(10分ごとに更新)、洪水警報等が発表されたときに、どこで危険度が高まっているかを把握することができます。



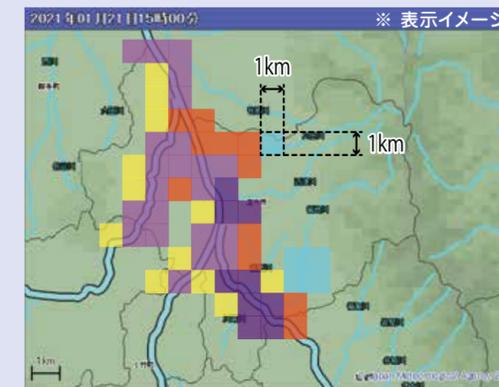
色が持つ意味	説明
極めて危険	流域雨量指数の実況値が過去の重大な洪水災害発生時に匹敵する値にすでに到達。重大な洪水災害が すでに発生 しているおそれが高い極めて危険な状況。
非常に危険	水位周知河川・その他河川がさらに増水し、今後ははん濫し、重大な洪水災害が発生するおそれが高い。 水位が一定の水位を越えている場合には速やかに避難を開始する。
警戒	水位が一定の水位を越えている場合には、避難の準備が整い次第、避難を開始する。 高齢者は速やかに避難を開始する。
注意	ハザードマップ等により避難行動を確認する。今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に注意する。
今後の情報等に留意	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。

「極めて危険」(濃い紫色)が出現した段階では、すでにはん濫して道路冠水等が発生し、避難が困難となっているおそれがあります。このため、遅くとも「非常に危険」(薄い紫色)が出現した時点で、水位計や監視カメラ等で河川の現況も確認した上で、速やかに避難開始について判断することが重要です。また、洪水警報の危険度分布に関わらず、市から避難情報が発令された場合は速やかに避難してください。

大雨警報(浸水害)の危険度分布

<https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/inund.html>

気象庁が提供している、大雨警報(浸水害)を補足する情報です。1km四方の領域(メッシュ)ごとに、短時間の強雨による浸水害発生危険度を5段階に判定した結果を表示しています(10分ごとに更新)。危険度の判定には1時間先までの雨量予測に基づく表面雨量指数の予測を用いています。



色が持つ意味	住民等の行動の例 ^{*1}	想定される周囲の状況例
極めて危険	《表面雨量指数の実況値が過去の重大な浸水害発生時に匹敵する値にすでに到達。重大な浸水害が すでに発生 しているおそれが高い 極めて危険 な状況。》	
非常に危険	周囲の状況を確認し、 各自の判断で、屋内の浸水が及ばない階に移動 する。	道路が一面冠水し、側溝やマンホールの場所が分からなくなるおそれがある。道路冠水等のために鉄道やバスなどの交通機関の運行に影響が出るおそれがある。周囲より低い場所にある多くの家屋が、床上まで水に浸かるおそれがある。
警戒 ^{*2}	安全確保行動をとる準備が整い次第、早めの行動をとる。 高齢者等は速やかに安全確保行動をとる。	側溝や下水が溢れ、道路がいつ冠水してもおかしくない。周囲より低い場所にある家屋が、床上まで水に浸かるおそれがある。
注意	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に注意。ただし、 各自の判断で、住宅の地下室からは地上に移動し、道路のアンダーパスには近づかないようにする。	周囲より低い場所で側溝や下水が溢れ、道路が冠水するおそれがある。住宅の地下室や道路のアンダーパスに水が流れ込むおそれがある。周囲より低い場所にある家屋が、床上まで水に浸かるおそれがある。
今後の情報等に留意	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意。	普段と同じ状況。雨のときは、雨水が周囲より低い場所に集まる。

^{*1}大雨警報(浸水害)の危険度分布に関わらず、自治体から避難勧告等が発令された場合や下水道管理者から氾濫危険情報等が発表された場合には速やかに避難行動をとってください。
^{*2}自治体から避難準備・高齢者等避難開始が発令される状況です。

「警戒」(赤色)以上の危険度で示された地域は浸水害の危険度が高いことを示しています。周囲より低い場所、道路のアンダーパス、地下室など命を奪われる可能性がある場所では、危険度が高まってきたら、屋内の高いところや場合によっては屋上へ移動するなど、早めの安全確保行動を心がけてください。また、大雨警報(浸水害)の危険度分布に関わらず、市から避難情報が発令された場合は速やかに避難してください。